

## 第3章 協働の基本

### 3-1 ことばの意味

このハンドブックに登場する用語と、その意味・定義を紹介します。

用語	意味・定義
市民	市内に居住している人（外国人や法人含む）のほか、市内に通勤、通学している人や、事業を営んでいる、もしくは活動を行っている個人、法人、その他の団体のこと。
市	帯広市長、その他の執行機関のこと。
協働	市民と市または市民同士などが、それぞれの役割と責任に基づいて、互いに尊重しながら、協力し合うこと。 このハンドブックで示す「市民協働のまちづくり」は、個々に知識や技能、経験などを高めてきたもの同士が、よきパートナーとして連携し、それぞれの力を活かしながら「まちづくり」という共通の目的を持って、地域の公共的課題を解決するために、協力して取り組む考え方のこと。
市民活動	市民が、営利を目的とせず、自らの価値観や信念から、生活の向上や課題解決のため自主・自発的に取り組む活動で、宗教や政治上の主義に関する活動を除いたもの。
ボランティア	自発的な意志に基づき、技術や知識を提供することで他人や社会に貢献する人のこと。また、その活動や行為そのもの。
NPO	Non-Profit Organization（非営利組織）の略。さまざまな社会貢献活動を行い、団体の構成員に対し、その収益を分配しない団体のこと。このうち、特定非営利活動促進法に基づき法人格を取得した団体を「特定非営利活動法人（NPO 法人）」という。

1 きょうどうつてなに？

2 ハンドブックができるまで

3 協働の基本

4 協働・連携をすすめるために

5 身近なヒント！  
取り組み事例

おわりに

## 3-2 協働の基本的な考え方

帯広市では、引き続き市民活動の環境を整え、より効果的な協働関係の構築に向け、次の考え方により市民協働の取り組みをすすめます。

### 情報共有と意識啓発

市民活動に関するポータルサイトのほか、広報紙、ホームページ、SNSなどさまざまなメディアを活用し、団体の活動や協働事例等について適切な時期に分かりやすく情報提供をすすめ、協働への理解や意識の醸成に努めます。

また、研修などを通じ、市民協働に対する職員一人ひとりの理解を深め、実践をすすめます。

### 人材の発掘と育成

ボランティア養成講座等の実施や登録制度のほか、市民提案型協働のまちづくり支援事業などにより、自主的な活動をする人材の発掘・育成を支援します。

また、子どもたちに対して、地域活動やボランティア体験を通じて協働への理解を深めます。

### 参加の機会づくり

実行委員会や審議会等における委員の公募など、市民が参加できる多様な機会の提供に努めるほか、市民活動のイベントやワークショップ等の実施、協働事例の紹介などを通じて、まちづくりの市民の参加を促進します。

また、企業との協働のまちづくり包括連携協定の締結などにより、多様な主体の参加を促すほか、子ども学校応援地域基金プロジェクト等の事業を通じ、様々な主体が連携する機会づくりをすすめます。

## 市民活動の支援

市民活動交流センターにおける市民活動専門アドバイザーによる、団体の立ち上げや運営などの相談のほか、市民提案型協働のまちづくり支援事業などによる財政的支援、市民活動に関する相談窓口を持つ関係機関との連携を通じ、市民による主体的な活動の支援に努めます。

また、市が取り組む協働事業の終了後に行う成果の振り返りや共有などにより、より良い活動につなげます。

## 市民活動施設の活用促進

市民活動の拠点として、コミュニティ施設や市民活動交流センター、ボランティアセンターなどの活用を促進するため、ホームページ等により周知を図ります。

また、施設の効果的・効率的な運営や活用方法などについて、市民のみなさんと協議しながら検討をすすめます。